

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

FACULTY of LIFE
and ENVIRONMENTAL SCIENCES



2021 生命環境学部案内

自然とつくる豊かな未来



生命環境学部は
山梨大学の4番目の学部として
平成24年に誕生した文理融合型の学部です。
この学部で、自然との共生可能な豊かな
地域社会の実現を目指して
いっしょに学び、いっしょに伝統を
作っていきましょう。



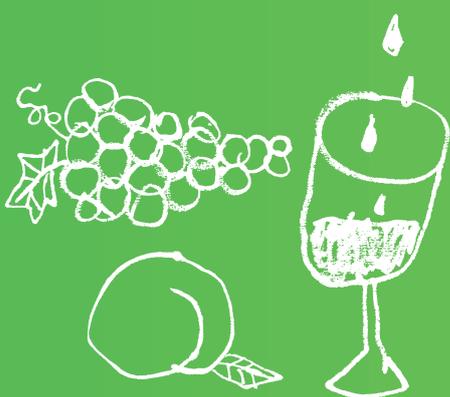
生命工学科

FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES

～自然科学と社会科学を総合的に学べる先進的な学部～

自然との共生可能な豊かな地域社会を
実現できる人材を育成します。





地域食物科学科
ワイン科学特別コース



環境科学科



地域社会システム学科
観光政策科学特別コース

生命環境学部は「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野を持つ人材を自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とし、理系3学科（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科）、文系1学科（地域社会システム学科）の4学科で構成される学部です。

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

生命環境学部

CONTENTS

生命環境学部での学び — 3

生命工学科 (入学定員 35名) — 5

地域食物科学科 (入学定員 37名) — 7
(ワイン科学特別コース)

環境科学科 (入学定員 30名) — 9

地域社会システム学科 (入学定員 48名) — 11
(観光政策科学特別コース)

関連施設 — 13

大学院 — 14

その他の情報 — 15

キャンパスライフ — 17



生命環境学部での学び!



生命環境学部では、「自然と社会の共生科学」を目指した
さまざまな学問分野の融合、基礎から応用までの一貫した教育、
実験・実習を重視した実践教育、大学院への連続性も考慮した教育を念頭に
工夫をこらした教育を行っています。

1年次

全学共通教育科目
学部共通科目
専門基礎科目

2年次

専門基礎科目
専門発展科目

「大学での学び方」を習得するとともに、社会人として必要な幅広い教養や語学、さらに今後ますます重要になるデータサイエンス等を全学共通教育科目で学びます。さらに、生命環境基礎ゼミなどを含む学部共通科目で問題解決能力を身につけます。

全学共通科目に加えて、新たに専門科目を学びはじめます。これらの科目間は「ブリッジ科目」によりスムーズに接続できます。また、地域と連携したフィールドワークなど実験・実習系の科目を通じて実践的知識と経験を深めていきます。



3年次

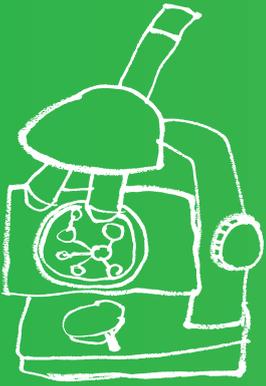
専門発展科目

4年次

専門特別科目

生命・食・環境・経営などの専門知識を深く学びます。さらに広範で複合的な問題へチャレンジする意欲の高い学生のために、他の学科の一部専門科目を履修できる相互乗り入れ制度を設定し、当該科目を履修することで、より幅の広い専門性を獲得します。

専門特別科目の卒業研究では実践的専門職業人として必要な高度な問題解決能力を身につけます。また、特別講義などを履修し、大学院へ向けた専門知識についても深く学びます。



生命の仕組みを解き明かす 最先端バイオ技術を学ぶ!

最先端のバイオサイエンスを基盤に
高い創造力をもって未来のバイオ産業を
担うことのできる人材を養成します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ



生命工学科における学び

実験実習を重視した実践的教育体制

■生命工学の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

生物学概論、基礎有機化学、基礎数学、データサイエンス、生命研究倫理学 など



■バイオサイエンス、バイオテクノロジーを深く学ぶ。

- ◎応用微生物学、分子生物学、構造生物学、発生工学、生物有機化学、
バイオインフォマティクスなどの講義で最先端の知識を身につける
- ◎化学・生化学・微生物・分子生物学・細胞生物学・発生工学の各実験を通じて実験スキルを修得する



■有用物質生産、食品生産・加工などの分野の技術者・研究者になる。

- ◎食品系製造業(食料、飲料、醸造等) ◎化学系製造業(医薬、化粧品、香料など)
- ◎医療系産業(機器、分析など) ◎不妊治療施設・クリニック(胚培養士など) ◎環境産業(廃水処理、環境分析)
- ◎農業関係法人(JAなど) ◎学術・研究機関 ◎地方公務員 ◎国家公務員

Check Point !!

■生命工学科では、授業にアクティブラーニングを取り入れ、最先端のデータサイエンスやAI(人工知能)に関する知識を学び、多くの実習や実験に取り組むことで、研究者・技術者になるための知識とスキルを身につけられます。

■多くの卒業生はバイオサイエンス関連の様々な分野で活躍しています。主な就職先は生命工学科ホームページ

(<https://www.bt.yamanashi.ac.jp>)をご覧ください。

■本学科につづく大学院に修士課程及び博士課程が設置されており、毎年卒業生の約7割は修士課程へ進学します。





専門科目名などの詳細は学科ホームページで。 <https://www.bt.yamanashi.ac.jp>

生命工学科では、バイオインフォマティクス、ナノバイオテクノロジー、ゲノミクスを始めとする先端バイオを学ぶことにより、食品生産（植物バイオ・発酵食品・機能性食品）、健康増進（有用微生物・医薬品・酵素・化粧品）、再生医学（iPS細胞・ES細胞・クローン技術）、バイオエネルギー、環境保全などに関する新しい技術を創出する能力を身に付けることができます。

研究室紹介

生命工学科では下記の教員が3つの分野で先端的な研究を行っています。
4年次に研究室に所属し、学部の大集大成として卒論研究に取り組みます。
半数以上の学生が大学院に進学し、より高度な研究に携わっています。

動物発生・細胞培養工学分野

★細胞培養工学研究室

教授/黒澤 尋 准教授/升井 伸治 助教/大貫 喜嗣
培養工学の観点から、iPS細胞やES細胞などの多能性幹細胞を使った再生医療の実用化を目指しています。多能性幹細胞から効率よく目的細胞をつくり出すため、細胞の増やし方（増殖法）や心筋などの機能細胞に変化させる技術（分化誘導法）、さらには細胞の品質評価法の開発を行っています。



★発生工学研究室

教授/若山 照彦 助教/大我 政敏

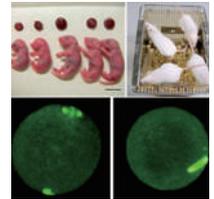
マイクロナビュレーターによる顕微授精技術やクローン動物の作出は、再生医療や農業、さらには宇宙時代の生活を大きく変える可能性を秘めています。これらの技術は発生工学と呼ばれるもので、私たちはこの技術を駆使して従来不可能だった実験に取り組みと同時に、エキスパートの養成を目指しています。



★胚環境研究室

教授/岸上 哲士 助教/渡辺 連

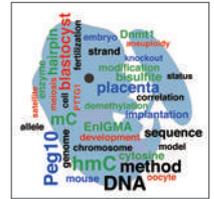
胚の発生は、卵子の老化や培養環境、また「核の質」などの要因により大きな影響を受けます。また胚や胎児の環境が個体の遺伝子発現や性質にまで影響することも明らかになりつつあります。私達は、哺乳類の個体発生や個体の性質に影響を及ぼす胚の仕組みを明らかにする研究を行っています。



★発生ゲノム科学研究室

教授/幸田 尚 助教/志浦 寛相

初期発生における遺伝子発現の制御、胎盤形成の機構の解明など、人を含めた哺乳類の初期胚発生に重要な過程を分子生物学的なアプローチで研究を行なっています。また、次世代シーケンサーを使った単一細胞の遺伝子発現解析やゲノム解析のための新規技術の開発も同時に行なっています。

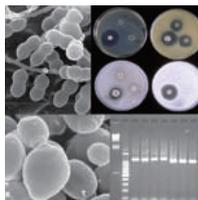


微生物機能・生態応用工学分野

★応用微生物学研究室

准教授/山村 英樹・中川 洋史 助教/小久保 晋

微生物は医薬品や発酵食品、農業への応用など様々な産業で人々の生活を支えています。私達は抗菌・抗がん剤などの医薬品原料を生産する放線菌の分離や新種提案、食品産業などに幅広く用いられる酵母の機能開発、有用植物の新規栽培法の開発や生理活性物質の探索等に取り組んでいます。



★微生物利用工学研究室

准教授/大槻 隆司

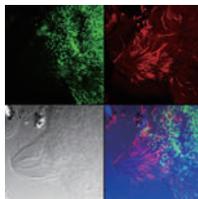
バイオの世紀と呼ばれる現在、人類が地球環境と共存して発展するにはバイオ技術が必要です。私達は生物の未知の能力を発掘し、その機能をタンパク質や遺伝子のレベルで解明し、バイオマス活用技術へ応用することで未来を豊かにする研究を行っています。



★環境微生物学研究室

准教授/野田 悟子

自然環境中には多種多様な微生物が生息し、動植物と共生関係を築いています。宿主生物の環境適応や代謝に重要な役割を担っている微生物の進化的・生態学的特徴の解明を通して、環境保全や資源利用に寄与することを目指しています。

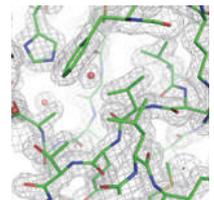


ナノバイオ・医薬工学分野

★蛋白質構造生物学的研究室

准教授/大山 拓次

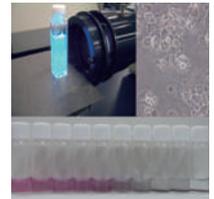
タンパク質は生物の主要成分の一つであり、酵素や物質輸送、シグナル伝達など、生物の多彩な機能を実現する魅力的な分子です。私達はタンパク質の複雑な立体構造をX線結晶構造解析法を使って決定し、生物の仕組みを理解する研究を行っています。



★ナノバイオテクノロジー研究室

准教授/新森 英之

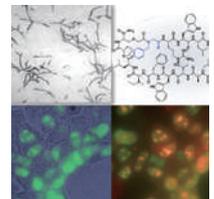
近年、生体の機能に倣った科学はナノバイオテクノロジーという新分野へ発展しています。そこで我々は、生体機能を利用した新規な機能性材料・薬剤の開発を目指しています。具体的には、多彩な物質工場である生物をミクロな科学的視点で解き明かし、人に役立つ医薬品やバイオセンサー、バイオマシン、生体適合材料等の開発研究を行っています。



★医薬分子工学研究室

助教/川上 隆史

私達は独自のケミカルバイオロジー技術を用いて、ガン、免疫疾患、高脂血症、アルツハイマー病、糖尿病などの様々な病気に対する治療に役立つ新規ペプチド医薬品（分子標的治療薬）を開発する研究を行っています。また、それらの医薬品を発見するための新しいケミカルバイオロジー技術を開発する研究を行っています。



地域食物科学科 (入学定員 37名)

(ワイン科学特別コース)



人類の生存に欠くことのできない 食物について学ぶ!

地域性に富むワイン科学特別コースを学科内に設置。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

地域食物科学科・ワイン科学特別コースにおける学び

基礎から応用、そして実践に繋がる新しいカリキュラム

■食物の基礎知識・技術をしっかり学ぶ。

◎果樹、農作物の栽培 ◎微生物学 ◎食品製造学 ◎生物学 ◎栄養学

■食物科学を深く学ぶ。

◎農産物の生産 ◎食品製造の科学
◎食品微生物の分子生物学的解析と利用
◎食品成分の栄養学と有用成分の利用

■ワインの科学を深く学ぶ。

(ワイン科学特別コース)
◎ブドウ栽培、ワイン製造の技術
◎ワインの成分の分析と利用

■食物科学や農学の知識・技術を食料問題の解決に活かす人材になる。

◎食品産業、醸造産業 ◎製菓産業 ◎ワイン産業 ◎果樹栽培業
◎食品加工産業 ◎農業生産関連産業 ◎大学院 ◎国家・地方公務員



Check Point !!

■人類は有史以来、食品を作り続けてきました。かつてないスピードで進む環境破壊、そして人口増加、食物を取り巻く状況は大きく変化しています。地域食物科学科では、先端的な科学的手法を駆使した果樹や野菜の生産やワイン製造などの加工を実践し、食料問題の解決や食物の利用性と機能性を高める教育を行います。

■教育モデルとして「ワイン科学特別コース」を設置し、ブドウ栽培・ワイン製造を専門に研究する「ワイン科学研究センター」の歴史と実績を活かして、専門的なワイン製造技術を教育しワイン製造業界で活躍できる人材を養成します。





地域食物科学科は、食物（食品製造、食品栄養、園芸）およびワイン製造に関する知識・技術（微生物、機能成分、果実遺伝子）を学べる新しい学科です。バイオテクノロジーを駆使した果樹や野菜等の農産物の栽培、食品製造の科学的理解、栄養・有用成分の解析と利用、ワイン製造技術等を課題に、食物生産から食品製造までのプロセスを包括的に学びます。

研究室紹介

地域食物科学科では、4年次に研究室に配属され、食物やワインに関する卒業論文研究に取り組みます。下記の6つの研究室があります。園芸学、食品製造学、食品栄養学、果実遺伝子工学、機能成分学、発酵微生物工学について研究を行います。

安心して食べられる野菜や果物の安定生産を目指して

★園芸学研究部門

教授／村松 昇 准教授／矢野 美紀

食は、私達に心身の健康と豊かな生活をもたらす大切な存在です。しかし、近年、食の安全を脅かす事件や、異常気象による農作物被害が多発し、多くの人が食に関する不安をつらえています。当研究室では、安全な食物を安定的に供給するシステムの構築を目指し、情報通信技術の農業への利用を検討しているほか、植物工場の利用、これまで生産が少なかった果樹品目の栽培など、最新技術を用いた新たな農業に向けた研究に取り組んでいます。また、農業や化学肥料を使わず、土壌微生物の働きを高める野菜の栽培法の研究も行っています。

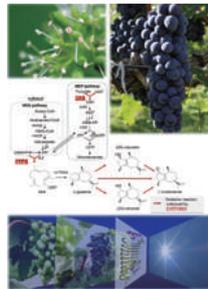


美味しいブドウをつくり、新しい栽培法を研究する

★果実遺伝子工学研究部門

教授／鈴木 俊二 准教授／山下 裕之 助教／榎 真一

果実遺伝子工学研究部門では、「美味しいブドウをつくり、手間をかけず栽培する」をキーワードに、基礎研究および応用研究を行っています。「美味しいブドウをつくる」ために私たちは分子育種と古典的な交雑育種を組み合わせて、香りに特徴をもち、着色性に優れ、高品質でかつ病気に強い理想的なブドウの育成を目指しています。また、「手間をかけずに栽培する」ためにはブドウの樹の形にこだわり、省力的、高品質安定生産が可能となる新整枝・せん定法を研究しその有利性を明らかにしています。さらにもともと自然界に生息する微生物を活用してブドウを病害虫などから守る農業の開発も行っています。



ワインの「おいしさ」を科学する

★機能成分学研究部門

教授／奥田 徹 准教授／久本 雅嗣 助教／斉藤 史恵

ワインの「おいしさ」は「色」「香り」「味」が三位一体となってつくりだされています。すなわち、「おいしい」ワインを造るためには、「色」「香り」「味」に関わる成分の化学構造や性質、生成する要因を科学的に解明することが重要です。私たちは、醸造中や熟成中に、どのような成分がどのようなメカニズムで抽出・生成されるのかを解析し、より優れた醸造技術への応用を目指しています。また、人がおいしさを感じるメカニズムについても注目しています。嗜好性や生体調節効果を持つ化合物を利用することで、より魅力のあるワインを造ることを目指し、研究に取り組んでいます。



食品製造を科学的に理解し、実践するフロンティア

★食品製造学研究部門

教授／舟根 和美 准教授／三木 健夫

食べ物のおいしさ、食べやすさに直結する、食品の食感や製造方法に関する研究をしています。様々な加工条件による食品の性質を、食品の物性と構造の両面から解析し、新たな食品価値を創造します。さらに酵素を利用した新しい食品素材の開発にも取り組みます。

また、酵母の遺伝子に関する研究を行っています。発酵食飲料製造に欠かせない「酵母」の性質は、遺伝子の相互作用によって生じています。遺伝子を構成するDNA配列を多面的に解析し、様々な情報を得ることにより「酵母」の持つ高次機能についての研究（高浸透耐性、アミノ酸活性化、細胞外タンパク質機能等）を行っています。



栄養素の健康維持に対する役割を研究し、地域に貢献する

★食品栄養学研究部門

教授／望月 和樹

私たちは、毎日食物から多くの栄養素を摂取して生きています。これらの栄養素には、エネルギー源となる栄養素（糖質、脂質、タンパク質など）、体を形作る栄養素（タンパク質、ミネラルなど）、代謝を助ける栄養素（ビタミン、ミネラルなど）などがあります。健康な生活を営むために、これらの栄養素の適正な摂取が必要となります。さらに、近年では、これらの栄養素に区分されない食事因子（食物繊維や、抗酸化食品成分など）も私たちの体にとって大切な役割を担っていることがわかってきました。食品栄養学研究部門では、食生活と密接に関連している疾患（生活習慣病やアレルギー疾患）の予防を目標に、栄養素および食事因子の役割を探求することを目標に研究を行っています。



発酵を科学し、豊かな食生活に貢献する

★発酵微生物工学研究部門

教授／柳田 藤寿 准教授／岸本 宗和・乙黒 美彩

ワインをはじめとする発酵食品の製造において、酵母や乳酸菌は様々な成分の生成を通して発酵食品の品質に大きな影響を与えています。我々はワイン醸造環境（ブドウ園、ワイナリー）や自然界（湖、花）から酵母や乳酸菌などの有用微生物を探求し、香り成分や代謝産物など微生物の持つ未知の能力を解明することで、ワインや発酵乳飲料など個性豊かな発酵食品の開発を目指し研究を行っています。



環境科学科 (入学定員 30名)



自然環境の仕組みを 解き明かせ!

豊かな自然環境を
次世代に残すための知識と技術を学ぶ。



カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

環境科学科における学び

環境科学科には、しっかりとした理系教養の基礎を身につけて
自然の仕組みを解き明かし、次世代に豊かな環境を残していくために
必要な専門的な知識・技術を得るカリキュラムが用意されています。

■環境科学に関わる理系教養の基礎をしっかり学ぶ。

- ◎基礎物理学 ◎基礎環境化学 ◎生物学概論 ◎基礎数学 ◎情報処理及び演習 ◎生命環境基礎ゼミ
- ◎生物資源論 ◎生物資源実習 ◎環境科学基礎実験 ◎自主ゼミ(=学生が自主運営する実験活動・勉強会) など

■環境科学に関わる 専門的な知識を得る。

- ◎大気環境科学 ◎多様性生物論 ◎水循環学
- ◎水圏科学 ◎土壌科学 ◎環境科学演習 など

■環境科学に関わる 専門的な技術を習得する。

- ◎河川実習 ◎大気科学実習 ◎土壌学実習
- ◎環境生物学実習 ◎環境モデリング実習 など

■環境科学に関わる専門的な知識・技術を持ちつつ、 総合的に物事をバランスよく見ることが出来る人材になる。

- ◎環境コンサルタント業や環境分析業等の環境産業、自治体や各種公共団体に就職
- ◎専門性を高めるために大学院へ進学(卒業生の約4割が大学院に進学)

Check Point !!

■環境問題は私たちの暮らしに関わる課題が複雑に絡み合い、一人の専門家の能力ではとても対応しきれなくなっています。チームとして問題の解決に当たる必要があり、チームがうまく機能するには様々な分野の基礎的な知識を持っている人材や、その連携をとるコーディネーターも必要です。そこで環境科学科では、個々の専門分野の能力を持ちつつ、総合的に物事をバランスよく見ることが出来る人材、思いやりを持って人々の将来を考えられる人材を育てます。



生命環境学部
環境科学科
ホームページ



専門科目名などの
詳細は学科HPで。

<https://www.ev.yamanashi.ac.jp>





教育・研究指導を担当する教員は「環境科学」に係る幅広い分野のエキスパートにより構成されており、その研究成果は国内はもちろんのこと、国際的にも高く評価されています。

■環境科学科の研究テーマ

【Keywords】

自然の造形美、水質、健康、水資源保全、植物、土壌、微生物、水辺の生態、大気汚染、南極観測、衛星観測、食料生産、浄化、資源循環

大自然に潜む「カタチ」の不思議

教授／島 弘幸

動植物や大自然の景観が私たちに魅せる美しい「カタチ」を科学的に調べています。その不思議な形成メカニズムを解明することで、大自然に横たわる新しい科学法則の発掘を目指しています。



流域の物質循環と健康・生活

教授／西田 継

森林・農地・都市の水と栄養のバランス、地下水の涵養と汚染の仕組み、環境要因が健康や福祉・経済に与える影響について、山梨・アジア・アフリカ・欧州の各地で調査と研究を行なっています。



水中の化学物質の調査と安全な水利用

教授／風間 ふたば

水中の化学物質の調査、都市の河川水質予測、途上国における簡易水質浄化方法などについて研究を続けています。環境教育にも長年取り組んでいます。



植物に対する環境ストレスの影響

助教／黄瀬 佳之

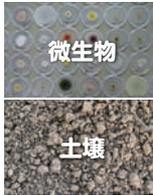
大気汚染や気候変動が植物に及ぼす悪影響の解明とその対策に取り組み、食料生産や温暖化防止などの植物が有する有益な機能の維持・発揮を目指しています。



土壌微生物の生態と有効利用に関する研究

助教／片岡 良太

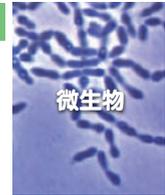
土壌微生物の機能を利用して環境を制御することを目標に研究を行っています。室内実験と屋外での調査・研究を互いにフィードバックさせながら自然の実態に肉薄したいと考えています。



新しい微生物資源の開拓と利用

准教授／田中 靖浩

培養が難しい未知微生物の分離培養を可能とする技術の開発、取得した未知微生物を用いた環境保全や浄化、有用物質生産等に関する研究を行っています。



環境微生物を利用した水処理技術

助教／亀井 樹

微生物の力を用いた排水・上水処理技術を研究・開発し、環境に配慮しながら私たち人間が健康で安心・安全な生活を持続できる社会の構築を目指しています。



流域生態系における食物網の構造と動態

教授／岩田 智也

陸－河川－海洋間の物質フローの経路とダイナミクスを調べることで、流域における生物群集の維持機構を明らかにしていきます。



大気中の微量化学成分の動態と環境への影響

准教授／松本 潔

微量化学成分の大気環境中での動態についてフィールドでの観測に基づく研究を行い、これらの成分が気象や気候、生態系に与える影響の解明を目指しています。



大気および海洋環境を対象とした光学観測

准教授／小林 拓

海の汚れや気候に影響を与える空に舞う微粒子の量や性質を、宇宙から調べる(リモートセンシングといいます)ための基礎的な研究を行っています。



衛星観測・数値モデルによる河川流量測定

教授／石平 博

数値モデルや衛星観測技術を用いて、世界の様々な地域における河川流量を推定・予測する方法の開発に取り組んでいます。



流域～全球スケールの水循環

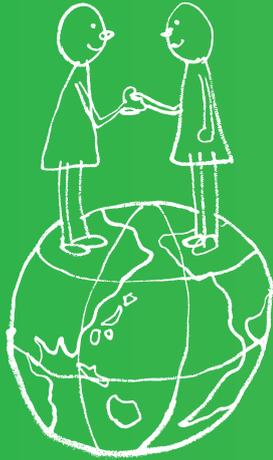
准教授／馬籠 純

衛星・地理情報と数値モデルを駆使して、水循環と社会の関係性について、流域スケールと全球スケールの2つの視点から研究を行っています。



地域社会システム学科 (入学定員 48名)

(観光政策科学特別コース)



マネジメント・プロフェSSIONALになる!

文理融合の生命環境学部の中にある「オンリーワン」の文系学科。経済、経営、法律、政治、政策、地域計画、数理分析について深く学び地域を「マネジメント」する能力を身につけ、自然と社会の共生に基づく「持続可能な発展」に貢献する人材を目指します。

カリキュラムの構成 進路を見据えて学ぶ

地域社会システム学科・観光政策科学特別コースにおける学び

社会科学の総合的な知識と数理分析スキルを身につける

■ 地域社会システムの様々な構成要素と地域発展に関する基礎知識をしっかりと学ぶ。

- ◎ 経済学、経営学、法学、行政学、政治学など社会科学の基礎科目
- ◎ 統計学、基礎数学など、計量的分析方法の基礎科目
- ◎ 共生科学、生命科学、生物資源、環境科学など、自然との共生に関する科目

■ 経済学、経営学を深く学ぶ。

- ◎ 経済学の理論と経済現象の分析方法
- ◎ 経営学の理論と企業経営の分析方法

■ 法学、政治学を深く学ぶ。

- ◎ 基本的な法律知識と法学的な分析方法
- ◎ 政治学や行政学の理論と政策過程の分析方法

■ 地域計画、数理分析スキルを深く学ぶ。

- ◎ 地域計画の理論、方法、関連計画や政策
- ◎ 統計学や経済数学など、計量的な分析方法と管理方法

■ 観光経営・観光政策を学ぶ。

- ◎ 観光経営・観光マーケティング・観光行政・観光政策の理論と手法
- ◎ 観光資源を活かした地域づくりなど

■ 民間企業や行政機関などで地域社会をマネジメントできる人材になる。

- ◎ 国家公務員 ◎ 地方公務員 ◎ 一般企業 (製造業、金融業、サービス業、観光産業、ITなど)
- ◎ シンクタンク ◎ 起業家 ◎ NGO・NPO ◎ 大学院進学など

Check Point !!

■ 地域社会システム学科で、学生は、地域社会のマネジメントに関する専門知識やスキルを体系的に修得するとともに、地域に対する知識とグローバルな知識を両立させながら、幅広い視野から社会を「マネジメント」する能力を身につけます。

■ また、観光政策科学特別コースに所属する学生は、地域社会システム学科の専門科目に加え、観光経営・ビジネス分野および観光行政・計画分野の専門知識を習得できます。

■ 卒業後の進路として、民間企業・官公庁・地方自治体・公益法人・各種団体・大学院進学など、幅広いものが期待できます。

地域社会システム学科 ホームページ



専門科目名などの
詳細は学科HPで。

<https://www.ss.yamanashi.ac.jp>



地域社会システム学科は、生命・食・環境の基礎を理解し、経済、経営、政治、行政、法律、数理、観光などの専門知識を学び、人類が直面している食料問題や環境問題を社会・経済・行政システムとの関わりにおいて理解し、その諸問題に立ち向かい、地域社会の繁栄の実現に貢献できる人材を養成します。

履修可能な科目群



【経済】社会科学入門、財政学

准教授／門野 圭司

政府の経済活動を研究対象とする財政学の学習を通じて、経済的に不遇な人たちの言い分にも共感できる心と、経済の実態を科学的に理解する頭脳と、両方を身につけることの大切さを掴み取ってもらえればと思います。

【経済】マクロ経済学、食料問題とグローバル経済

教授／渡邊 幹彦

マクロ経済学では、国全体が豊かであり続けるための経済政策について学びます。食料問題とグローバル経済では、この経済政策をグローバル社会の進展にどのように対応させるのが良いかについて学びます。

【経済】公共経済学

教授／渡邊 靖仁

ミクロ経済学の理論を用い、市場の失敗・政府の失敗の発生理由と対策を分析し、効率と公平・貢献原則と平等原則などのトレードオフ関係について認識を深め、経済社会を公・共・私の3視点から把握する力を涵養します。

【経営】経営戦略論、経営組織論

准教授／佐々木 博之

良いマネジメント（経営）ができれば、顧客や従業員、投資家などの利害関係者に十分な価値を提供でき、企業は存続・発展します。そのための戦略と組織づくりについて、最新の研究成果と企業事例から学びましょう。

【経営】経営学概論

教授／西久保 浩二

経営学を実践的な視点から幅広く学ぶことを通じて、企業経営を科学的に分析、評価し、そして改革できる力を身につけます。また、日本企業が持続的な競争優位に立ち、生存、成長する戦略を学びます。

【法律】日本国憲法、統治機構論

准教授／石塚 迅

法学分野の科目の中で、主に憲法に関連する科目を担当しています。私たちが享有する人権にはどのようなものがあり、それを保障するための統治のシステムはどのようなものであるべきかについて考えます。

経済 経営 法律 政治

【法律】民法学I・II

教授／福田 和也

社会生活上しばしば接することとなる民法、商法を中心に講義を行っています。主として知識の習得になりますが、民事法学における思考方法も適宜紹介したいと考えています。

【法律】行政法I・II

助教／若生 直志

行政活動が社会の様々な領域に及んでいくにつれ、その法的コントロールの必要性も高まっていきます。国民の権利を保護すると同時に、社会を発展させていくための法制度について考えます。

【政治】政治学概論、環境政治論

准教授／金 基成

政治思想・政治体制・政治システム・民主主義・社会運動・市民参加など、政治学の基礎知識と考え方を習得するとともに、生態学的に持続可能な社会のあり方と政治過程上の諸課題について討論します。

【政治】国際関係論I・II

准教授／小松 志朗

国際関係論を基礎から学んで、世界の構造や歴史、具体的な諸問題について理解を深めます。地域社会のことを考える時にも、グローバルな視点から世界とのつながりを意識できるようになってもらえればと思います。

【政治】行政学、地方自治論

准教授／藤原 真史

政治学の一分野である行政学、地方自治論では、国や地方自治体のさまざまな活動を支える行政資源（ヒト、モノ、カネ、情報等）やそれらを活用して産み出される政策について、理論や歴史、現状、課題等を学びます。

【政策】環境経済政策論I・II

准教授／喜多川 進

日本のみならず海外の具体的な環境政策の事例を通して、環境政策の推進・阻害要因および環境問題解決のための望ましい政策のあり方を学びます。

【計画】地域計画学、地域共生デザイン

教授／大山 勲

都市や農村地域の計画、景観・環境・観光などの個別計画、商業・交通・集落空間などのデザイン、法定計画の限界、市民行政協働まちづくりの実践など、地域の持続と活性化を進めるための計画づくりの基礎を学びます。

政策 計画 数理 観光

【計画】エネルギーマネジメント、数理計画法

准教授／島崎 洋一

地域社会における望ましいエネルギーの使い方について学習します。行政や企業におけるエネルギーの導入計画、経営管理を主題とします。身近な例として、家庭の電力測定演習を行います。意思決定の手法を理解します。

【計画】経済地理学

准教授／宮川 雅至

地域の社会経済現象を場所・空間に着目して客観的に分析し、問題解決につなげるための立地モデルを学びます。土地利用、施設配置、商業立地などを対象に、モデルを実際の地域に適用することを目指します。

【数理】経済・経営数学、社会数理システム

准教授／伊藤 一帆

世の中で起きている現象を数式を用いて表現することを数理モデリングといいます。そして、その数式を分析することにより、複雑な現実の本質が見えてきます。経済現象を中心に、この一連のプロセスを修得しましょう。

【数理】基礎統計学、基礎統計学演習

准教授／平井 寛

あなたが仕事やその他の場で何か新しい提案をしようとするとき、その提案に説得力を持たせるにはどうしたら良いでしょうか。統計学は実際に起きた結果のデータに基づいた根拠を示すことができる有力なツールです。

【観光】観光政策論、観光資源保全・活用論

准教授／菊地 淑人

観光政策・計画という観点から、観光資源を活かした地域づくりを学びます。また、世界遺産をはじめとした文化・自然遺産の価値評価やマネジメントを学ぶことで、地域資源を守り、観光等に活かす方策を身につけます。

【観光】観光経営論I・II

教授／田中 敦

訪日観光客の急増など変化が著しい観光について、地域とグローバルの双方の視点から幅広いテーマを取扱います。また観光経営等の学修を通じて、マーケティングや企業経営の基礎知識を実践的に習得していきます。

関連施設

学部附属施設



附属農場

甲府市農業センター小曲試験圃場の一部を借用して作られた総面積約2.5haの農場です。山梨県の特産果樹であるブドウや桃、地域特性に適した農作物の作付けを行い、教育・研究に利用します。また、全学科の学生がこの農場で「生物資源実習」を受講します。設備として、管理棟 (575㎡)、ガラス温室 (480㎡)、堆肥舎、人工気象室、プレハブ倉庫などがあります。

学部教育に協力する研究センター

山梨大学にはいくつかの研究センターがありますが、そのうち発生工学研究センター・ワイン科学研究センター・国際流域環境研究センターの教員が生命環境学部の教育に参加します。これにより、最先端の研究の成果が教育の中に取り入れられます。



発生工学研究センター

実験動物飼育室、マイクロマニピュレーション室、分子生物学実験室、細胞培養実験室、細胞イメージング室等からなる研究施設です (2階建て800㎡)。この施設では、遺伝子 (DNA)、タンパク質、細胞、動物個体の各レベルにおいて質の高い実践的な教育研究を行うことができます。

1階
動物実験 (マウス)
マイクロマニピュレーション

2階
細胞培養実験
細胞イメージング
分子生物学実験



ワイン科学研究センター

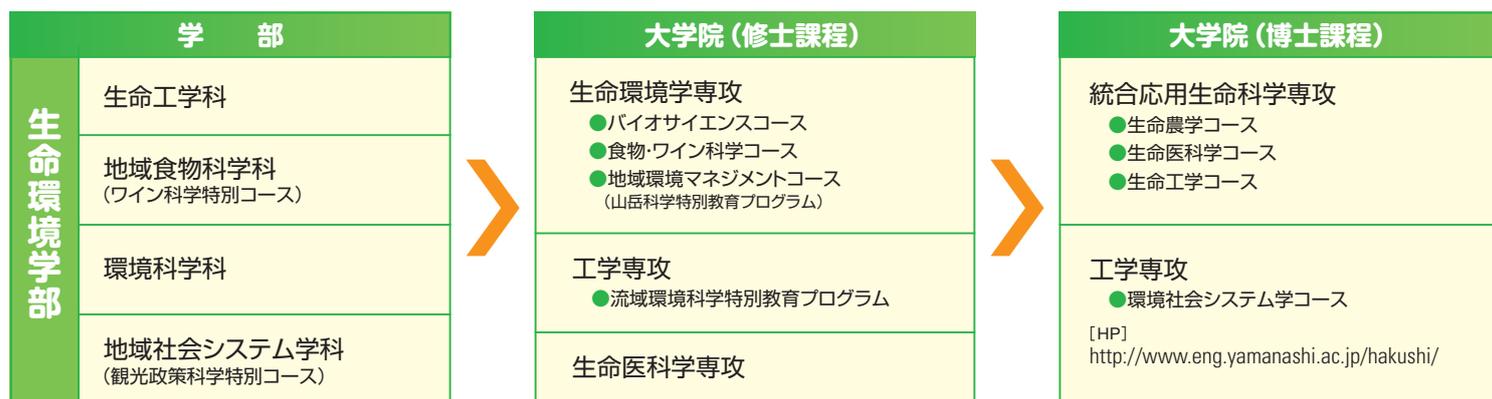
国立大学唯一のワイン科学を専門に研究するセンターです。60年以上の歴史があり、日本のワイン科学の教育と研究の拠点になっています。地域食物科学科の「ワイン科学特別コース」では、ワイン造りに情熱を抱き、ワイン業界をリードできる高度な専門知識と技術を持つ人材を育てます。



国際流域環境研究センター

水資源の枯渇、水災害、水環境の悪化、水に起因する病気など水にかかわる問題に対応するための研究を行っているセンターです。アジアを主として、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカやアフリカの大学・研究機関と連携し、国際的な研究と教育 (流域環境科学特別教育プログラム等) を行っています。

大学院（修士課程・博士課程）



生命環境学専攻（修士課程）『食と健康』『生命と環境』に関わる文理融合型の教育と研究

●生命環境学専攻は「生命・食・環境・経営」に関する教育研究を目的としています。自然科学と社会科学の文理融合的アプローチで、人類にとって最も普遍的で重要な「食と健康」および「生命と環境」に関わる諸問題の解決に貢献できるエキスパートを育成します。本専攻には、以下のコースがあります。

バイオサイエンスコース

生命科学を基盤とした「食と健康」、「生命と環境」に関する教育研究。

食物・ワイン科学コース

ワインをモデルとしながら科学的に探求し、食品産業を原料生産・加工・販売、安全から経営まで多面的に見渡せる教育研究。

地域環境マネジメントコース

環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する教育研究。

●「食と健康」および「生命と環境」に関わる課題を、社会・経済・行政システムとの関わりでとらえ、自然科学の知識で理解・分析し、技術革新や政策によって解決する意欲をもつ人を求めます。

●4つの特別教育プログラム(発生效学技術開発・実践、流域環境科学、先端脳科学、協応行動科学)に参加することもできます。



統合応用生命科学専攻（博士課程） 医工農の分野横断的な教育と研究

●統合応用生命科学専攻(博士課程)は平成30年4月に新設されました。修士課程と同様に医工に農学を加え、医工農の分野横断的な教育を展開いたします。生命環境学部、生命環境学専攻(修士課程)に接続する専攻であり、山梨県で初めての農学系を有した大学院博士課程で、ワインや発生效学など本学の強みを活かした教育を展開し、地域に貢献でき、グローバルに活躍できる人材を養成します。本専攻には以下のコースがあります。

生命農学コース

発酵・食品に関連する複数の学問分野の高度な知識と技術を修得し、食と健康及び環境に関連する産業分野で活躍できる人材を養成。

生命医科学コース

免疫や神経科学等の高度な専門知識と技術を身に付け、コメディカルなど医療機関等で活躍できる人材を養成。

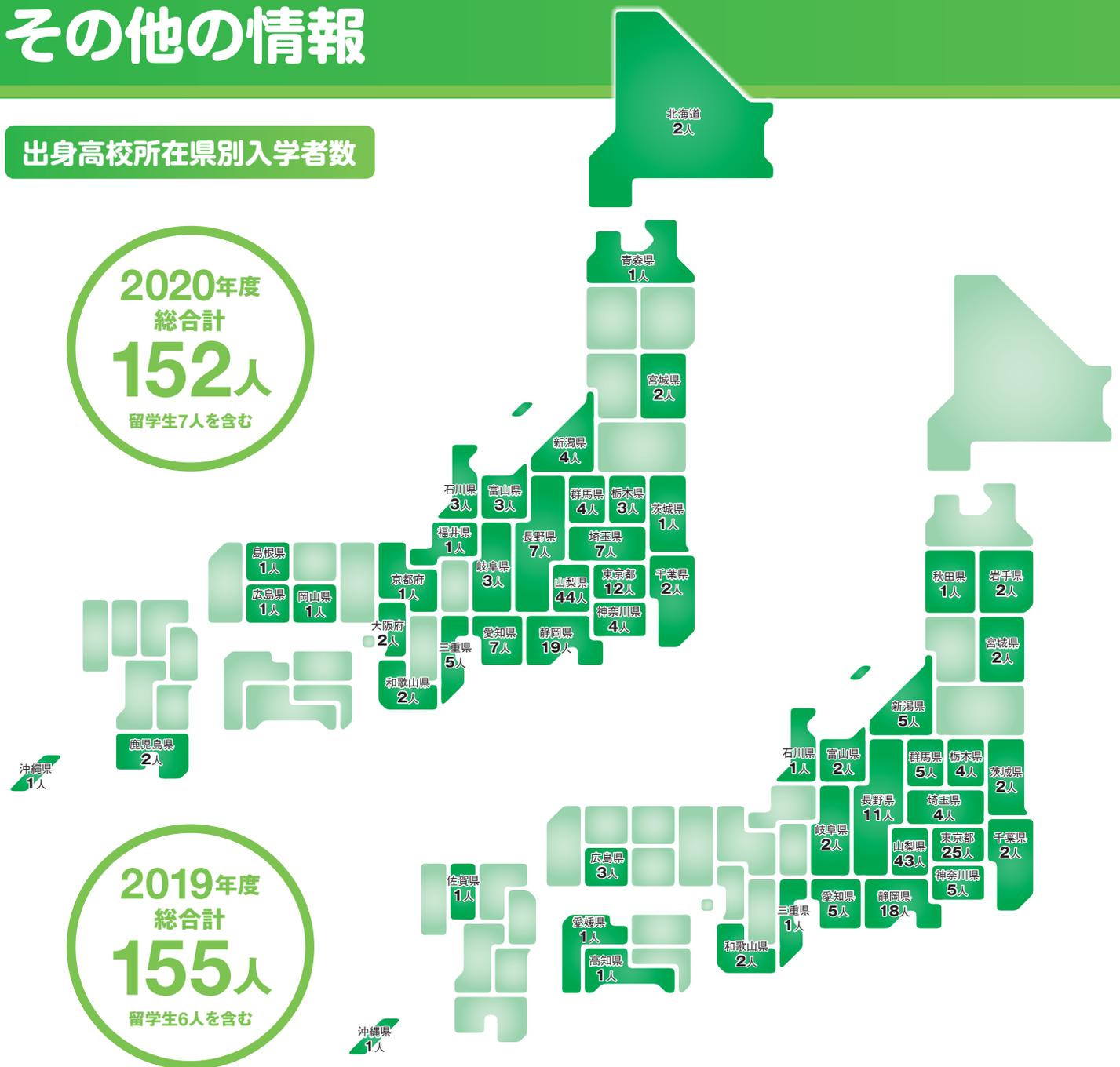
生命工学コース

発生效学や周辺の学問分野を含む高度な生命工学の技術と知識を修得し、生殖補助医療、再生医療やバイオ関連産業で活躍できる人材を養成。

その他の情報

出身高校所在県別入学者数

2020年度
総合計
152人
留学生7人を含む



2019年度
総合計
155人
留学生6人を含む

2020年度 個別学力検査志願状況

()内は2019年度の数字

募集区分【前期日程】	募集人員	志願者数	志願倍率
生命工学科	30	76 (68)	2.5(2.3)
地域食物科学科	32	63 (75)	2.0(2.3)
ワイン科学特別コース [※]	13	34 (37)	
環境科学科	25	81 (86)	3.2(3.4)
地域社会システム学科	43	122(240)	2.8(5.6)
観光政策科学特別コース [※]	13	30 (42)	
合 計	130	342(469)	2.6(3.6)

募集区分【後期日程】	募集人員	志願者数	志願倍率
生命工学科	5	72 (32)	14.4(6.4)
地域食物科学科	5	48 (42)	9.6(8.4)
ワイン科学特別コース			
環境科学科	5	34(162)	6.8(32.4)
地域社会システム学科	5	53(120)	10.6(24.0)
観光政策科学特別コース			
合 計	20	207(356)	10.4(17.8)

※ワイン科学特別コースの人数は、地域食物科学科前期日程の募集人員数と志願者数に、内数として含まれています。

※観光政策科学特別コースの人数は、地域社会システム学科前期日程の募集人員数と志願者数に、内数として含まれています。

2018・2019年度進路状況

生命環境学部

学 科	卒業年度	卒業者	進 学	就 職	他	就職先
生命工学科	2019	34	25	9	0	八王子市役所、日本ルナ、安曇野食品工房、日立ソリューションズ・クリエイト、リッビ、理科研、K&Oエナジーグループ、新晃工業、パーソルテンプスタッフ
	2018	37	21	12	4	八王子市役所、帯広市役所、協同商事コエドブルフリー、バイオニア・マイクロ・テクノロジー、メディカルシステム研究所、米久デリカフーズ、テックマークジャパン、独立行政法人鉄道運輸機構、太陽工業、スターゼン、YKK AP、エノモト
地域食物科学科	2019	30	5	23	2	農林水産省、東京都庁、警視庁、東京高等裁判所、府中市役所、甲府市役所、一宮市役所、アリエッタエフアンドビー、ファーストストーリー、キャン、成城石井、高瀬物産、システムフロンティア、JA全農兵庫、東京エレクトロン、はくばく、愛知みなみ農業協同組合、全農チキンフーズ、ヴィクセス、日世、キネマントラス、日本コムシス
	2018	34	14	20	0	静岡県庁、内閣官房、横浜市消防局、グリーンハウス、モランボン、スズケン、エイジェック、渡辺パイプ、安曇野食品工房、グレープストーン、マンズワイン、デリカフーズ、ゼンショウホールディング、ポテトデリカ、TREES、トヨタグループ、館園、日本香堂、林農園
環境科学科	2019	29	12	17	0	NTTファシリティーズ、関電パワーテック、日本製紙クレシア、ソノ、東京セキスイハイム、山梨中央銀行、KOA、システナ、良品計画、ネクスウェイ、鈴与商事、栗原弁天堂、メイキョー、岩掘電設、たまらんど、イナテック、平和みらい
	2018	38	10	28	0	山梨県庁、甲府市役所、浜松市役所、富士市農業協同組合、JAフルーツ山梨、愛知県農業協同組合、JR東日本テクノロジー、東海旅客鉄道、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京、日立パワーソリューションズ、古河電工パワーシステムズ、明電舎、茨城セキスイハイム、フォネット、スワベ商会、ジインズ、ヤマト科学、静環検査センター、SALAガステックサービス、シチズンファインデバイス、山崎製パン、CSS技術開発、スターツコーポレーション、メイキョー、創味食品、クレスト、オオバ
地域社会システム学科	2019	48	0	46	2	山梨県庁、神奈川県庁、高知県庁、豊橋市役所、岡崎市役所、桐生消防、山梨大学、裁判所(事務官)、日本年金機構、山日YBSグループ、Rec-on、北国銀行、YSKe-com、共信冷熱、CAN不動産、JR東日本システムズ、静岡ガスリビング、オリンパスメディカルサイエンス販売、ミサワホーム甲信、アルファシステムズ、ハケ岳乳業、日商エレクトロニクス、協和コンサルタンツ、L000P、IJインターナショナル、フロンティアダイレクト、ライフステージ、博報堂プロダクツ、ワイ・シー・シー、日本食研、かんぼ生命、電通イベントオペレーションズ、アサクス、アスフィール、アイセック、富士急行、HIS、JTBコミュニケーションデザイン、十六銀行、グリーンハウス、NTTレンタル・エンジニアリング
	2018	34	0	34	0	山梨県庁、静岡県庁、横浜市役所、甲府市役所、南アルプス市役所、地方独立行政法人 山梨県立病院機構、福井労働局、日本アイ・ビー・エム、富士通マーケティング、日立システムズパワーサービス、JTBコミュニケーションデザイン、東日本旅客鉄道、リゾートトラスト、富士観光開発、中央観光、清水銀行、野村信託銀行、全国労働者共済生活協同組合連合会(全労済)、住友生命保険相互会社、日通NECロジスティクス、ちふれ化粧品、文理学院、夏目光学、ビジョンサービス、セコム山梨、エイジェック、YSKe-com、コメリ、マルマサフード、レッドバロン

生命環境学専攻(修士課程)

コース	修了年度	修了者	進 学	就 職	他	就職先
バイオサイエンスコース	2019	20	3	17	0	国立印刷局、中外製薬工業、AGCテクノグラス、正田醤油、富士レビオ、IQVIA サービスズ ジャパン、DSP五協フード&ケミカル、帝国インキ製造、トクヤマデンタル、アルソア本社、タイショー テクノス、ミヨシグループ、WDBココ、CJ、エフスタイル、エン・ジャパン、ビルドシステム
	2018	22	5	14	3	山梨県庁、一般社団法人日本血液製剤機構、日本ビグメント、第一三共ケミカルファーマ、イノメディックス、天野エンザイム、安曇野食品工房、ネオファーマジャパン、ビープラウンエースクラブ、藤森工業、柴田屋酒店、アセラ、WDB(株)エウレカ社、大宝化学工業
食物・ワイン科学コース	2019	13	0	13	0	山梨県庁、香川県庁、横浜市役所、月桂冠、エノテカ、十勝大福本舗、軽井沢ブルワリー、はくばく、マンズワイン、アビ、アルソア本社、キリンディスティラリー
	2018	9	0	8	1	高砂香料工業、TSメトリック、築地魚市場、メタジェン、アウトソーシングテクノロジー、はくばく、盛田、銀座コージーコーナー
地域環境マネジメントコース	2019	9	0	8	1	ANAシステムズ、メタウォーター、平和食品工業、マイナビ、大都技研、イヌカイスポーツ、クラブツーリズム、日本工営
	2018	6	1	5	0	笛吹市役所、吉田町役場、クレスソフト、ミヤマ、ユニタス日本語学校(甲府校)

工学専攻(修士課程)

コース	修了年度	修了者	進 学	就 職	他	就職先
流域環境科学特別教育プログラム*	2019	3	0	3	0	栗田工業、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京、日水コン
	2018	5	2	3	0	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京、ケミカルグラウト、NTTファシリティーズ北海道

※流域環境科学特別教育プログラムの進路状況については、生命環境学部卒業生の進路状況のみ記載

キャンパスライフ

講義!



実習!



実験!



発表!



討論!



勉学サポート

- 各学科では、学年ごとにクラス担任が決められていて、学び方・生活などのアドバイスを行っています。
- 大学での学び方についての授業科目(共生科学や生命環境基礎ゼミなど)があります。
- 数学・理科などの科目では、高校での勉強の復習から始まる基礎教育を行います。
- グループ学習・実習ができ、数学および物理などの個別指導を受けられる学習支援室があります。
- 附属図書館には、静かな空間で勉強に集中できる「サイレントエリア」、グループでディスカッションできる「ラーニング・コモンズ」があります。また、開館時間以外および休館日に館内閲覧・館内資料の文献検索等が利用できる特別使用(申請が必要)もできます。

その他のサポート

- 広報活動などを通じて、保護者・出身高校とのつながりを大事にしています。保護者の方には、每学期成績表をお送りしています。
- キャンパス全域に高速無線LAN設備があり、インターネットが自由に使えます。
- キャリアセンターでは、就職関係の資料を整備するとともに、企業説明会、就職活動に役立つ各種セミナーやガイダンスを開催し、就職活動のお手伝いをしています。(https://www.career.yamanashi.ac.jp)
- 保健管理センターでは、健康診断、医師による診察、保健師等による健康相談・保健相談、けが等の応急処置などを行っています。(https://health.yamanashi.ac.jp)
- 学生サポートセンターでは、悩みごとや困りごとに関する相談やカウンセリング、支援を必要とする学生の修学支援を行っています。(http://www.sp-needs.yamanashi.ac.jp)
- 国際交流センターに、外国人留学生の就学、学生生活の相談に応じる相談室を設け支援を行っています。(https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/)

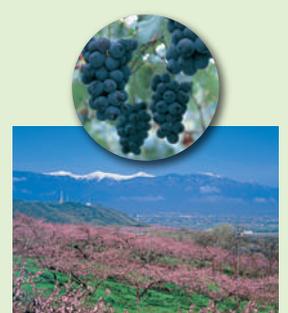
様々な相談に応じられるよう連携し、
学生相談の体制を整えています。





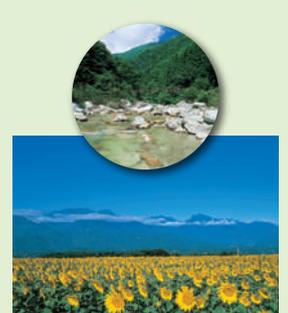
観光・レジャー王国 山梨

山梨県は、世界的な観光名所である富士山・富士五湖周辺をはじめ、清里高原や南アルプスといった、観光・レジャースポットがいっぱい。四季を問わず楽しむことができるので、長期の休みはもちろん、週末でも、ちょっと足をのばせば、素敵なロケーションの中で、心身ともにリフレッシュすることができます。



フルーツといえば山梨

山梨県と言えばブドウ、桃、そしてサクランボの産地として全国有数のほご存知だと思います。桃の生産日本一を誇る山梨県の笛吹市一宮町では、毎年4月、桃の花が一同に咲き出し、桃色のじゅうたんを敷き詰めたような風景が広がります。



美味しい水・日照時間が長い山梨

美味しい水も山梨県が誇るものの一つ。北社市の尾白川など、県内各地には美しい水を育む、清流が点在し、ミネラルウォーターやソバなどの物産も重要な資源になっています。さらに、一日の日照時間が長い県としても有名です。高原に広がるひまわり畑で有名な北社市明野町は、「日照時間日本一」の町でもあります。

新宿から甲府まで電車で**最速83分**。意外と近いんです!!

静岡駅から**131分**。富士駅から**104分**。岡谷駅から**55分**。



9:00授業開始!!
 住居費をかけず東京から通学できます。
 【特急】八王子07:29発→甲府08:27着
 【普通】八王子06:54発→高尾07:07発→甲府08:38着



電車・バス

新宿⇒甲府駅 都心からだ、最速83分。特急なら乗り換えなし。

- JR中央線 特急「あずさ」または「かいじ」で最速83分
- 新宿駅南口「バスタ新宿」より最速119分

名古屋⇒甲府駅 名古屋からでも、特急に乗ればおよそ3時間。

- ①JR中央線(塩尻駅経由)/塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え、最短181分
- ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)/静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え、最短195分
- JR名古屋駅前バスセンターより約240分

甲府駅⇒甲府キャンパス 甲府駅から、信玄公ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

車

東京⇒甲府キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC~甲府昭和IC(高井戸=甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

名古屋⇒甲府キャンパス

東名高速:名古屋IC~小牧JCT~中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋=甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

UNIVERSITY OF YAMANASHI - FACULTY OF LIFE AND ENVIRONMENTAL SCIENCES

山梨大学 生命環境学部
 UNIVERSITY OF YAMANASHI
 TEL.055-220-8803
 〒400-8510 山梨県甲府市武田4丁目4-37
<https://www.les.yamanashi.ac.jp/>



スマートフォン用



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。